

広報 すぎなみ

Suginami



支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

{ 11/15 }
令和3年(2021年)
No.2317

鉄道史を紐^{ひも}といて知る
荻窪駅と杉並のまち。

この12月に開業130周年を迎える荻窪駅。この駅の設置からこれまでの130年間に、杉並にはさまざまな交通機関が生まれ、多くの人の暮らしを支えてきました。そんな鉄道史を長く研究し、歴史を書き残し続けてきたのが鉄道歴史研究家・中村建治さん。中央線と縁が深く、思い入れも人一倍という中村さんに、荻窪駅誕生のストーリー、鉄道史の魅力などを伺いました。

特集

↑
すぎなみピト

中村
建治

鉄道歴史研究家



Contents — 主な記事 —

8 | 12月4日～10日は人権週間です 10 | JR荻窪駅130周年記念イベント 16 | 新型コロナワクチン3回目接種のお知らせ

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課



お知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、本紙掲載の催し等が中止になる場合があります。

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

鉄道が充実しているまちには、人々の交流と豊かさが生まれます

JR荻窪駅130周年記念イベントについては 10面へ

上高地で目にした車窓風景に感動して「乗り鉄」に

—最も懐かしく思い出深い鉄道の記憶はどんなものですか？

生まれ故郷は山梨県で、最寄り駅は大月駅。上京して御茶ノ水へ通学した後も中野や三鷹、阿佐ヶ谷など、ずっと中央線沿いで暮らしてきました。最も古く印象深い鉄道の記憶は、上京する1年前。昭和39年に東海道新幹線が開業し、一度は乗ってみたいと初めて一人旅をした時のことです。鼻先が丸い「0系新幹線」で、そのスピードには驚かされました。そして静岡あたりで窓から富士山を見た時、ふだん山梨側から見ているそれとは違う形に感動したのを覚えています。

—鉄道に興味を持ち、夢中になり始めたのはいつ頃からですか？



上京後、兄と共に新宿駅から夜行列車「急行アルプス」に乗り、松本駅で松本電鉄（現アルピコ交通）に乗り換えて上高地へ行った旅がきっかけです。紅葉真っ盛りの時期で、“動く車窓”というものに心を奪われました。「鉄道って楽しいな」と、いわゆる乗り鉄に目覚めたのがその時。その後学生時代は、当時学割で安く購入できる「均一周遊券」というものがあって、それを使って北は北海道から南は九州までいろんなところを鉄道で巡りました。就職後は仕事が忙しくなかなか長期の旅行はできなくなりましたが、それでも時間を見つけては近場のローカル線などを楽しんでいました。

かつての線路跡、幻の路線に思いを馳せる鉄道史

—鉄道史の研究に取り組むようになったきっかけは何ですか？

たまたま仕事で地域の歴史を扱う業務を担当し、大学の歴史関連の先生などと交流するようになったのが始まりです。歴史というものに興味を湧き、それなら自分の好きな「鉄道」の分野を研究してみようと考え、調べるようになりました。最初に書き上げたのは、もちろん中央線の鉄道史。その後、山手線、地下鉄などさまざまな鉄道の本を書きました。

—鉄道史を知る面白さは、どんなところにあると感じますか？

鉄道史を取材している中で私が特に面白く感じるのは、廃線跡路を歩く時です。歴史と照らし合わせながら「昔ここにこんな線路が走っていたんだ」「ここには駅があったのか」などと思い馳せるのがとても楽し



▲昭和27年「荻窪駅」

いです。中でも、当時の風景を知っている場所だと感慨深いです。また、線路を敷く計画があった場所、駅を置く計画があった場所という事実も、調べている中でたくさん出てきます。例えば荻窪駅一つとっても、いくつもの路線から乗り入れの計画があったんですよ。「もしその計画が実現していたらこんなふうになっていたのかな」などと想像することも、鉄道史の醍醐味です。敷かれなかった幻の線路もまた鉄道史の一部なのです。

—鉄道取材をする上では、どのようなことを大切にされていますか？

そうですね、「足で書く」ということでしょうか。今はインターネットでもある程度のごことは調べられますし、図書館へ行けば関連書籍もたくさんあります。でもやはり現地へ赴き、実際に線路や線路跡を自分で見て、地域の方に会って話を聞くことで得る情報というのは、机の上で得た知識とはまったく違います。現場を見なければ迫力のある文章は作れないし、現地でしか得られない生きた発言、生きた発見というのが必ずあります。ですから、できる限り取材に出て、文章にする際はその場所へ行った空気感を出すことを心掛けています。

明治24年12月荻窪駅開業。にぎわうまちへ発展

—荻窪駅は今年の冬で開業130周年を迎えます。荻窪駅が開業したいきさつを簡単に教えていただけますか？

明治22年4月に新宿～立川間で開通したのが現在の中央線、当時の甲武鉄道でした。当初開業した駅は5駅で、中野の次は現在でいうところの武蔵境。この駅間の距離が長いこともあり、荻窪に駅を設けました。昔から鉄道は大きな街道のある地域と関わりが深く、多くの鉄道が街道の交差エリアに造られてきたものです。荻窪に関してもやはり青梅街道が近いため、農家の方々が農産物を新宿、四ツ谷、日本橋などに運ぶのに利用するであろうと見込まれた面もあります。当時は駅を造る際に所有者が献納というかたちで駅用地を寄付するのが通例。鉄道会社と土地を持つ農家の方々、双方がさまざまな試行錯誤や努力をしながら明治24年12月、現在の南口の場所に荻窪駅が開業しました。

—荻窪駅を中心に、荻窪のまちはどのように発展してきたのでしょうか？

「西の鎌倉、東の荻窪」などと言って、荻窪は古くは井伏鱒二や与謝野鉄幹・晶子夫妻をはじめとする多くの文化人に居住地として愛された土地でした。それだけ環境が良かったということでしょう。さらに甲武鉄道のみならず荻窪には都電の終着駅も設置され、非常に交通の便が良いため、当然ながら商業も栄えていきました。そうして、人が暮らしやすい環境と商業のバランスが取れたにぎわいのあるまちへと発展し、今に至るのだと考えられます。変化を続ける荻窪ですが、私自身が懐かしく思い出すのは北口エリア（タウンセブンやルミネがある辺り）にあった市場の風景です。今の様子からは想像できないかもしれませんが、薄暗い中、裸電球が灯され魚や野菜が威勢よく売られていたんですよ。天井から下げたざるにお金を入れて、「これ安いよ！」なんて呼び込みが響く活気のある場所でした。



撮影：松葉巖

—研究者である中村さんが「鉄道とまち」に期待するのはどのようなことですか？

杉並区は中央線、京王線、京王井の頭線、西武新宿線、東京メトロ丸の内線と鉄道が5本も走っていて、なおかつバス路線も多く、おそらく区内でも交通が充実した地域だと思います。活力あるまちをつかっていくために



プロフィール：中村建治（なかむら・けんじ） 山梨県大月市出身、杉並区在住。子ども時代から兄弟が住む杉並をよく訪れ、都電杉並線や相模部屋のある杉並を歩いていた。上京後に鉄道に目覚め全国を乗車。サラリーマン時代に鉄道史に興味を持ち、「生きていた証を残したい」と本の執筆を始める。「中央線誕生」を皮切りに「中央本線、全線開通！」「山手線誕生」「地下鉄誕生」「中野区・杉並区古地図散歩」など多数出版。現在も執筆や講座・講演で活躍中。

は、交通機関を充実させることは欠かせません。子どもから高齢者まで、誰もが気軽に出入りできるまち。人々が外へ出ていくからこそ交流が生まれ、まちを豊かにしていくと思うのです。ですから今後、鉄道を増やすことは難しくても、バスをはじめ交通機関をより一層充実させていくことが求められるのではないかと思います。

お世話になった杉並の鉄道史を書くことが人生の宿題

—中村さんが杉並の中で最も好きな「鉄道のある風景」はどこですか？

一つ挙げるならやはり、まっすぐに伸びた中央線の風景ですね。中央線の中野～立川間の約25kmは、開業当時は日本一、現在でも新幹線を除けば本州で最も長い「直線の線路」なんです。この長く一本につながった雄大な線路を、高いところから眺めるのが好きです。鉄道というのは、言ってしまうと確かにただの移動手段にすぎません。でも、私にとって鉄道は移動以上に「癒やし」の存在。車窓を楽しみながらのんびり駅弁を食べるひとときなんて、本当に贅沢な時間だと思っています。

—最後にぜひこれから挑戦したいこと、夢をお聞かせください。

コロナ以降活動を休止していますが、区内で鉄道サークルを20年近く開催しています。鉄道好きが集まって鉄道の情報交換をするのですが、好きなものを通して交流できることがとても楽しくて。まずはこのサークルを再開することが目の前の目標です。そして、長くお世話になってきた杉並への恩返しとして、杉並区の鉄道をテーマに本を書くことも夢のひとつ。これは人生の宿題だと思っています。いつか実現できるように頑張りたいです。

路線別の色分けは中央線から始まった？！

中央線のテーマカラーと言えばオレンジ。オレンジ色に塗装された昔の車両を懐かしく思い出される方もいらっしゃるでしょう。実はそれ以前に遡ると、電車はどの路線も同じ茶色（ぶどう色と呼ばれていました）の車両でした。昭和32年の新車両導入時、茶色とは別の色を付けることになり、その第一号として中央線にオレンジの色が付けられたという歴史があります。



YouTubeで配信中！
すぎなみビット「中村建治さん」のインタビューが動画でも楽しめます。右2次元コードからご覧ください。
紙面には掲載しきれなかった取材のこぼれ話も動画で紹介しています。
すぎなみビット MOVIE
杉並区公式チャンネル